

会 師 医 師 市 牧 小 苦
 一 郎 沖

慢性関節 リウマチ

慢性関節リウマチの現状は、最近変化してきています。患者数の増加、患者の高齢化、患者の障害程度の進行などです。

現在、慢性関節リウマチの患者数は人口の〇・三%といわれており、日本全国に三十万人いるとされ、軽症者を含めると五十万から百万人ともいわれています。慢性関節リウマチが女性に多く、この病気は若い人の病

進行すれば機能障害に

気といわれていました。若い女性に結婚してリウマチにかかり、家事が困難になり、その結果家庭不和が起こるような悲劇がみられたわけです。この傾向は最近よくなってきましたが、一方で高齢者のリウマチが増え、問題が起ってきています。最近の厚生省の統計によると、リウマチ患者の三七%は六十五歳以上です。さらに日本の

人口が高齢化している現在、慢性関節リウマチ以外のリウマチの訴えを持っている患者さんの数も増え、種々の病気との鑑別が必要になっていきます。また、診断法が進歩したために、新しい患者が発見されるようになってい、患者数増加の一因にもなっています。慢性関節リウマチは命に関する予後は比較的良好です。しかし、関節の病変が進行

すると、著しい機能障害を呈し最後は寝たきり状態になるわけです。

厚生省研究班によると、リウマチ患者の八一%は生活に何らかの不自由を訴えており、さらに寝たきりや車いすなど日常生活に著しい制限を受ける患者数は三五%にも及んでいます。しかも療養生活が長いため障害がますます進行していき、非常に

深刻な状態となっています。リウマチの原因は免疫の異常があることは分かっていますが、免疫異常の原因については分かっています。

さらに治療法には、薬物療法、外科的手術、リハビリテーション、基礎療法(日常生活の注意)などがありますが、これらを統合して治療を進めて行かねばなりません。薬についても非ステロイド系抗炎症剤、免疫調節剤、ステロイド剤などがあります。が、根本的な治療法は今はありません。しかし、他の疾病と同様に早期診断、早期治療が非常に重要であり、関節炎症状が出現した場合には、一度、専門医の診察を受けることをお勧めします。

お問い合わせは、苦小牧医師会
 電話 33-4720へ